



卒論に関するあれこれを考えよう



# 大雑把なテーマと目的

- 少年犯罪・少年矯正に対する大学生の考えを調べたい
- →いまどう思っているのかが分かる
- →なにが悪いイメージにつながっているのかが分かる
- →どうしたら正しい・良いイメージにつながるのか分かる？
- →良いイメージ・悪いイメージを持っている人の違いが分かる

# テーマに対する自分なりの考え

- 少年犯罪者の背景知識に同情したら、その人に対する批判意識は弱まり、矯正に対してプラスの感情を持つようになる
- 自分が理解できないことほど悪く、直らないように思う
- メディアは少年犯罪者の理解不能さを促進する←not報道yesワイドショー
- 少年犯罪について考えたことがない人ほど加害者・矯正に対するイメージが悪い

# 仮説

- 少年犯罪者の背景事情に同情するほど、加害者への批判意識は弱まり矯正が意味あると考えるようになる
- ⇔少年犯罪者への理解不能度が高いほど、加害者への批判意識は強まり矯正に意味がないと考えるようになる
- 少年犯罪を取り上げたメディアへの接触頻度が高いほど、少年犯罪者への理解不能度が高まり、加害者への批判意識が強まり、矯正に意味がないと考えるようになる
- 少年犯罪について考えたことがない人ほど、少年犯罪者への批判意識は強まり矯正に意味がないと考えるようになる

## 調べたいこと

- どういう背景知識に同情するのか・理解不能と思うのか
- →どういう背景知識があると批判意識が弱まり矯正意識が高まるのか
- メディアは少年犯罪の理解不能イメージと批判意識を増長させるか
- 少年矯正意識を高めるためには何が必要か…。

## 考え・改

- 少年犯罪者への批判意識・矯正意識・理解不能度は、背景事情に影響を受ける（自分とどれだけ違うか、同情できるか）  
⇒家庭環境＞学校環境 生まれながらのもの＞変えられる事情
- メディア(not報道yesワイドショー)にたくさん触れると、少年犯罪に対する理解不能度と批判意識が高まり矯正意識が低くなる  
⇒どんな報道のされ方が？
- 矯正意識を高めるには、犯罪の原因を本人の気質以外に帰属させる  
⇒でもそれは全ての少年犯罪者を拾い上げることにはつながらない...



# ここから生まれかわります

色々経てここに帰ってきたんだあの巻



## 0427ガストにて

- ☆少年非行に関する大学生の態度を調査する
- 調査できそうなこと：理解不能度、矯正可能度、批判、メディア...
  
- ★少年法改正に関する大学生の態度を調査する
- 調査できそうなこと：18歳、矯正、少年法
  
- 少年非行に対する態度と少年法改正に対する態度





# 先行研究たち



# 犯罪報道における少年犯罪の語られ方に関する 社会学的研究（2012）

- 少年犯罪が事実と異なり深刻化したと捉えられている、なぜか
  - 少年犯罪への社会的反応の過剰さ（イメージと実像のずれ）
  - 犯罪情報の入手経路は、実際の経験情報＜マスメディア（データ入れるか）
  - 犯罪報道により、ある犯罪が急速に社会問題化する→モラル・パニック
- 
- 普通の子、心の闇、という書かれ方
  - 少年非行等に関する世論調査バイ内閣府2005もいいな

# 少年犯罪に対する厳罰志向性と犯罪不安および被害リスク知覚の関連（2021）

- 厳罰志向性は少年犯罪に関する犯罪不安によって規定される
- 犯罪不安は被害リスク知覚によって規定される
- 被害リスク知覚は理解不能イメージによって規定される
- 厳罰志向性尺度、犯罪に対する感情的反応尺度、犯罪に対する認知的反応尺度、大学生の子ども観尺度を参考に新たな項目
- 楽観的認知バイアス、少年犯罪者の性質、少年犯罪者に限定した理解不能イメージをとること、個別の罪状にも当てはまるのかどうか

# 犯罪に対する帰属と量刑判断（2017）

- これまで少年犯罪と成人犯罪の比較が行われていない
- シナリオへの責任帰属、原因帰属、量刑判断について調査
- 少年犯罪は成人犯罪よりも犯人の親に原因が帰属されやすい
- 犯罪の被害が大きくなると加害者への責任帰属も高くなる
- 加害者の周囲の環境よりも加害者本人に強く原因帰属する

# 少年犯罪の原因帰属に関する心理学的研究 ——罪種と世代による比較—— (2009)

- 独自の理論で犯罪の原因帰属を行う→しろうと理論 状況過小評価傾向
- 性別、年代によって原因帰属の傾向は異なる
- 人格領域、家庭領域、学校領域、地域領域、社会領域
- ↑少年の特徴としてどの程度あてはまるかを聞いた
- 親はより原因帰属を多面的に行い、学生はより罪の軽重で原因帰属の仕方を変えていた

# 大学生の卒業研究で実施可能な犯罪心理学研究の一考察 —非行少年の自伝分析に基づいた立ち直り研究について—

- 少年非行、特に立ち直りの定義の多様さ
- 家族支援体制と興味能力の対象←→主に自己内省の二軸で立ち直り分析
- 非行罪種、早期非行、性別、
- 自伝から分析を行う